

# 令和元年(2019年度)にのぞむ

オリンピック観戦チケットの1次抽選が終わり、1年後に迫った東京オリンピック・パラリンピックが益々、身近に感じられる今日この頃です。私がいる東京では、メインスタジアムをはじめ、各競技会場の準備が着々と進められており、いやが上にも雰囲気盛り上がります。そんななか、5月に行われた西日本実業団空手道選手権大会にて、今年から社会人となった大浦靖矢君が個人組手の部で見事に優勝してくれました。秋に行われる全日本では、他のオリンピック候補選手たちと賜杯を争うこととなりますので、皆さんも、ぜひ、応援してください。

さて、元号が平成から令和に変わった今年(2019年度)、錬聖会は創立15年を迎えます。また、南出宗家がお亡くなりになって10年が経過する、ある意味、節目の年と言えます。そういった認識の下、5月に開催した錬聖会総会では、本年度について次の方針を決定しました。

## 1) 持続的成長力のある組織を構築する。

<課題>

- ①錬聖会空手道のアイデンティティを形にする。
- ②次期指導者を計画的に育成する。
- ③強化練習の内容をさらに充実する。
- ④情報発信力を強化して、共に鍛錬する道場生を増やす。

## 2) 文字通り15回目となる錬聖会大会(11/10開催)を成功させる。

<課題>

- ①若手指導者たちが企画し、運営する場とする。
- ②錬聖会空手道のアイデンティティを感じられる内容を追求する。

組織にとって、最大にして永遠の使命は『持続』です。

持続するためには『存続する価値(アイデンティティ)』を生み出し続けなければなりません。

そして、その価値は「組織」に定着し、そこで活動する「人」によって体現されるのです。

具体的には、各道場の師範たちが日々の修練を通じて、会員の皆さんと一緒に実現を目指します。

ぜひ、ご協力ください。

そして、秋に開催する第15回錬聖会大会演武会をみんなで盛り上げていきましょう。



前回の演武会の一風景  
(2017.11.5)

日本空手道錬聖会  
会長 森 拓生